

信州大学「信州データサイエンスプログラム（リテラシーレベル）」

令和7年度後期 自己点検・評価書

信州大学全学教育センター長

杉本 光公

信州大学全学教育センター データサイエンス教育部門長

平井 佑樹

1. 点検の概要

令和8年3月に開催された当部門会議において、本プログラム（リテラシーレベル）の修了に必要となる科目である「データサイエンスリテラシー（以下、本科目）」の実施状況・成果について点検・評価を行った。

点検にあたり、当部門長から次のとおり報告があった。

- ・ 令和7年度後期の単位修得状況・成績について
 - 単位修得状況や成績分布は概ね例年どおり（再履修者を除く後期履修者の単位修得率は93%）である。
 - 特に注意が必要となる「単位修得率が9割未満となっている学部等」はなかった。
 - 後期開講科目においても、令和8年度から4年次履修者がいる。本科目は全学必修であるため注意が必要である。
- ・ 令和7年度後期履修者を対象とした「学生による授業アンケート」の結果について
 - 本科目で設定している「到達目標への到達度」の回答者平均値について、これまでの最大値を更新した。
 - 「達成感を得られた」の回答者平均値についても、これまでの最大値と同じ値となり、高水準を維持している。
- ・ 本科目独自のアンケート結果について
 - 本科目の良い点については、「情報社会に関する知識獲得」や「オンデマンド授業の良さ」に関する意見が例年どおり多かった。また、本科目で提示している「参考資料の多さ」に関する意見が今期初めて回答数の上位に入った。
 - 本科目の改善点については、「資料の多さ」や「小テストの難しさ（制限時間の短さを含む）」に関する意見が例年どおり多かった。少数意見として、本科目で提示している「記述課題」が「小テスト」よりも知識定着という点で良いという意見が得られた。
 - 学習方法に関する後輩へのアドバイスについては、昨年度と同様に、「自分で理解する・調べる・考える」ことなど、主体的学習を促す意見が多かった。また、「〇〇を忘れない」など、今期は自己管理に関するアドバイスが比較的多かった。

- ・ 改善点で挙げられた「資料の多さ」に関する意見について、本科目では、科目全体で45時間の学習となるよう、授業1回あたり（おおむね1週間あたり）5時間程度の学習量になるよう教材を提供している。しかしながら、今期の「学生による授業アンケート」の結果を確認したところ、「1週間あたりの授業外学習時間」として、9割以上の回答者が「2時間未満」を選択していることから、資料が多いとは言い切れないと判断した。その後、当部門長から、令和8年度での開講に向けて「自己管理に関するアドバイスをガイダンス動画等で伝えること」や「学習の進め方に関するヒントをFAQ形式で提示すること」が示され、部門員でそれを確認した。

2. 評価の概要

学生による授業アンケートにおける「到達目標への到達度」において回答者平均値の最大値を更新したことなどがあり、科目全体として大きな問題点は特に見当たらなかった。前年度に引き続き、本科目独自のアンケート結果等を踏まえ、各期前半開講科目での単位修得率向上を目標として、今後も授業運営を行っていくことを確認した。

以上